

CHARLES-ÉMILE JACQUE

シャルル＝エミール・ジャック(1813～1894)



居眠りする羊飼いの少女 1869年作

キャンバスに油彩

53.7×95.2 cm

バルビゾン派七星・羊と羊飼いの画家

※Vincent MARILLIER 証明書付

※この作品のパステル面の習作（下絵・同大きさ）が
ワシントンナショナルギャラリーに所蔵

CHARLES-ÉMILE JACQUE

シャルル＝エミール・ジャック (1813～1894)



作品名 The Shepherdess 1869 年作
種類 pastel on brown wove paper
サイズ 52.6×94.9 cm
※ワシントンナショナルギャラリーにパステル画の習作(下絵)所蔵

作品名 居眠りする羊飼いの少女 1869年作

種類 キャンバスに油彩 (本画)

サイズ 53.7×95.2 cm

※Vincent MARILLIER 証明書付

略 歴 バルビゾン 七星の一人

1813 パリに生まれる。

地図の版画職人の見習いに入る。

1830 その後、志願して6年間軍隊生活を送る。
兵役後、渡英。イギリスにて挿絵を制作(約2年間)
フランス帰国後、銅板画家、挿絵画家として活動(1843頃まで)

1840頃 モンマルトルの風景を描き始める

1845 エッチング(版画)でサロン入選。
その後、版画家として幾度か入選。この頃、ミレーと出会う。

1849 暴動とコレラで混乱するパリを逃れ、ミレーと共にバルビゾンに移住。
ミレーとは隣り合った家に住む。
その後、家畜や農業をはじめ、主題も家畜が中心となる。
ミレー、ルソーと共にバルビゾン派の基礎を築く

バルビゾンの村でジャックはミレーやルソーのすすめもあって油彩画を描きはじめ、版画時代に築きあげたすぐれた技巧を油彩画に反映し、羊の群れと羊飼いという牧歌的な主題を写実的に描いてたちまち人気画家となった。

1854 1850代から1860年代にかけてサロンで3等賞を計7度受賞している。
バルビゾン村を去る

1861 サロンに絵画を初出品。1859年作のパステル画を元に油彩画を出品している。2等賞を受賞

その後、動物画が中心に
1867 レジオン・ドヌール勲章を受章

1894 パリにて死去

【展覧会歴】

Canton Art Institute、オハイオ州カントン、1944年1月6日～5月1日
Les Animaliers and Animals in Early Nineteenth-Century French Art、
School of Visual Arts、Visual Arts Museum、ニューヨーク、
1985年4月8日～27日